十文字学園女子大学・短期大学部
The Jumonji Press
新座キャンパスだより
No. 41
2013.5

特報

- 全教職員合同研修会を開催
- 十文字の学びをメディアで発信!
- 卒業式・入学式レポート

08▶「十文字学」冠講座・総合ゼミのご案内　12▶2012年度就職戦線レポート
15▶教員インタビュー 石山隆之特任准教授
16▶十文字ニュース　福島支援活動報告会　etc.　18▶若桐会だより
19▶公開講座・オープンキャンパス情報　20▶講座「新座から学ぶ」社会貢献活動

Spotlight on Campus
社会貢献活動レポート

講座「新座から学ぶ」の履修学生が義援金とお菓子を被災した双葉町民へ

学生が作った「スノーボール」。

埼玉県加須市の旧埼玉県立騎西高等学校は、現在も福島県双葉町から避難してきた130名ほどの被災者が暮らしている。高齢の方が多く、毎日、弁当を食べながら生活されているという。本学の共通科目・十文字学の講座「新座から学ぶ」を履修した学生がこの事実を知り、集めた義援金を、旧騎西高等学校で避難生活をされている双葉町の方々に届けたいと、動きはじめた。

義援金について調べていくと、「双葉町の内部で不平等が生じる」という理由で、避難されている方々に直接届けることができないことがわかった。また、「双葉町義援金」という制度を利用した場合、そこに集まった義援金は町民に配分されるということだった。

1月19日(土)には、学生3名が講座を代表して旧騎西高等学校でのボランティアに参加し、避難所での生活状況を確認。被災者の方々と直接お話すると、「物もお金も不自由はしていません。こうして、話をしに来てくださるのが何よりありがたいです」という言葉をいただいた。

学生たちは考え抜いて、次のような結論を出した。

1. 旧騎西高等学校のボランティア活動への参加を学内に呼びかける。社会貢献活動の表彰(p17)でいただいたお金で、参加時の交通費の一部を援助。
2. 義援金は、双葉町の「ふるさと応援寄附制度」を利用し、「『人づくり』に関する事業」に寄附。双葉町を支える人を育てる事業に役立てていただくことで、義援金に託された思いをカタチにできる。

旧騎西高等学校で、双葉町の担当者に義援金を手渡す強瀬悠香さん。

さらに、新座産のさつまいもを使ったお菓子「スノーボール」を150個作り、2月13日(水)、講座代表の強瀬悠香さんが、義援金23万500円とお菓子を持って旧騎西高等学校を訪問した。義援金はふるさと応援寄附制度の担当者に直接渡し、「スノーボール」は避難所の皆さんに届けられた。

新座市内のイベントや学内でもお菓子を販売し義援金を募った。

最後まで、誠意を持ってやりぬいた学生たちを誇りに思う。支えてくださったたくさんの方々にも心より感謝している。

(講座担当 教授 高橋京子 記)

ふるさと応援寄附制度(ふるさと納税)

双葉町では、以下の事業で寄附を受け付けています。詳しくは双葉町のホームページ(http://www.town.futaba.fukushima.jp/)でご確認ください。

寄附金の活用先

1. 「人づくり」に関する事業
2. 「産業振興」に関する事業
3. 「健康・福祉」に関する事業
4. 「生活・環境」に関する事業
5. 「行財政の運営」に関する事業
6. 特に指定なし(町長が必要と認める事業)

福島県双葉町公式HP臨時サイトより

編◆集◆後◆記

春は出会いの季節であるが、別れの季節でもある。今年もまた、卒業生が爽やかに旅立っていった。スーツが似合うようになった先輩たちの姿からは4年間の重みが感じられる。私たち在学生も、先輩に続き、さまざまな場所で活躍していきたい。そして、OGの皆さんにはその活躍をいつまでも見守っていただきたいと願う。4月から新しい生活が始まった。今年もさらに成長できるよう努力したい。

(編集局長:大嶋理恵)

新座キャンパスだより第41号 2013年4月23日発行
発行人:木名瀬正行
編集局長:大嶋理恵　監修:大西正行
編集総務:三野裕子　編集事務:原 一彰
発　行:十文字学園女子大学・十文字学園女子大学短期大学部・十文字女子大附属幼稚園
〒352-8510 埼玉県新座市菅沢2-1-28
Tel. 048-477-0555(代表)

*『新座キャンパスだより』へのご意見・ご要望は、kohoka@jumonji-u.ac.jpまで。

表紙の写真
上:入学式　下左:課外活動・社会活動表彰式　下中央:ふるさと支援隊(太田部地区)　下右:卒業式

全教職員が合同研修 社会から学び、さらなる改革

平成24年度から新たに始まった全教職員合同研修会は今年3月までに6回を数えた。教職員が一堂に会して「教育の質保証」という命題を中心に一丸となって取り組む姿勢は、教育専門紙にも掲載され、他大学からも注目されている。

教育の質保証に一丸。教育専門紙も注目

本学の全教職員が、社会に広く目を開いて大学を取り巻く諸課題を受けとめ、大学教育と運営、学生支援の在り方の改善に向けて考える講演会「十文字学園女子大学 大学問題研究会」が、24年度に発足して、丸1年が経った。この間、演壇に立った学内外の講師は6名を数え、会場に集まった教職員は、建学理念の今日的理解、教育の質保証といった教学面の課題はもちろん、メンタルヘルスなどの問題についても意識を共有した。教員の資質を高めるFD（ファカルティ・ディベロップメント）、事務職員の資質を高めるSD（スタッフ・ディベロップメント）の成果を期す、双方の合同事業としての取り組みは、教育専門紙にも掲載された。

FD講演会に教職員150名参加
十文字学園女子大

第5回講演「教育の質保証とFD活動について」が「教育学術新聞（2面）」2013年2月13日付＝写真＝や「文教ニュース 第2225号（30面）」同年2月4日付で掲載された。

平成24年度の開催実績

第1回 平成24年4月26日（木）
テーマ 「建学の理念及び本学の教育研究について」
講　師 学長 横須賀 薫（事例報告：藤井宏昌募集・入試部長）
参加者 170名

第2回 平成24年7月19日（木）
テーマ 「地域から本学に期待すること」
講　師 新座市教育委員会 教育長 金子廣志氏
参加者 169名

第3回 平成24年9月13日（木）
テーマ 「私学振興上の諸情勢と当面する重要課題」～東日本大震災を超えて、高等教育政策のパラダイムシフトをめざして～
講　師 日本私立大学協会 事務局長 小出秀文氏
参加者 200名

第4回 平成24年11月22日（木）
テーマ 「認証評価及び教育の質保証について」
講　師 日本高等教育評価機構 評価事業部長 伊藤敏弘氏
参加者 160名

第5回 平成25年1月24日（木）
テーマ 「教育の質保証とFD活動について」
講　師 国立教育政策研究所 高等教育研究部 総括研究官 川島啓二氏
参加者 164名

第6回 平成25年2月19日（火）
テーマ 「ストレスにつぶされないためのメンタルヘルス講座」
講　師 東京医科大学衛生学公衆衛生学教室 講師 小田切優子氏
参加者 162名
※安全衛生委員会共催

平成25年度も活発に開催

4月4日（木）、本学特別支援教育センター長の岩井雄一教授を講師に第7回目の講演が行われた。テーマは「障害学生の修学支援～発達障害のある学生の理解と支援～」。2年目となる平成25年度も引き続き、積極的に講演を開催する予定だ。

第3回講師
日本私立大学協会 事務局長 小出秀文氏

第2回講師
新座市教育委員会 教育長 金子廣志氏

第1回講師
本学 横須賀薫学長

第6回講師
東京医科大学衛生学公衆衛生学教室 講師 小田切優子氏

第5回講師
国立教育政策研究所 総括研究官 川島啓二氏

第4回講師
日本高等教育評価機構 評価事業部長 伊藤敏弘氏

pick up!

講演会レポート

第2回 「地域から本学に期待すること」

大学生が地域で学ぶ大切さを強調

講師の金子廣志新座市教育委員会教育長は、本学と新座市が結んでいる包括協定に触れながら、市民総合大学をはじめ、同市との連携による活動の意義を強調した。

また、23年度の「総合ゼミ（共通科目）」の授業で学生たちが制作した地域フリーペーパー『ナチュライフ十文字』の平林寺の記事を挙げ、現役大学生が地域から学ぶことの大切さを強調した。

第3回 「私学振興上の諸情勢と当面する重要課題」

200名が私学の重要性を学ぶ

小出秀文日本私立大学協会事務局長は、私立学校の振興過程と特性、また建学の精神を具現化した教育理念など、時代の背景を踏まえながら私学の重要性をわかりやすく解説。さらに高等教育機関の諸課題、中央教育審議会や国家戦略会議の審議動向、私学関係政府予算要求と学校法人税制改正を巡る動向など多岐にわたる課題を詳細に説明。情熱的な語りは迫力に満ち、参加した本学教職員約200名を圧倒した。

第5回 「教育の質保証とFD活動について」

実践的で実りの多い研究会に

国立教育政策研究所総括研究官・川島啓二氏を招いた講演会には教職員164名が参加。2012年8月28日に文部科学省から発表された中央教育審議会の答申を「どう読むか」から始まり、学士課程教育の質的転換への方策、FDとは何かまでを、わかりやすくポイントをとらえた川島氏の講演は、高等教育の核心部分を学ぶ得がたい機会となった。

第6回 「ストレスにつぶされないためのメンタルヘルス講座」

心の健康が組織の活力を向上

教職員の心の健康は、本学が成果を上げるうえで重要であることから、安全衛生委員会との共催で、この研修会が企画された。講演には、東京医科大学衛生学講師の小田切優子氏を招き、3C「Cognition（ものの見方）、Control（自分で自分をコントロールできている感覚）、Communication（人と人のつながり）」をキーワードに、ストレスにつぶされないための心の持ち方について認識を深める講演が行われた。

テレビ埼玉のキャラクター「テレ玉くん」と記念撮影する大嶋理恵・衣笠明莉両編集長。

民放・BS・ケーブルテレビ

十文字の学びをメディアで発信!!

大学の特色を社会に浸透させる「広報力」がその盛衰をわけるといわれる今日。
本学では、教職員と学生が一丸となって「十文字ブランド」を高める動きが活発化しています。

学生編集長大嶋さん、衣笠さんがテレ玉「ごごたま」に出演

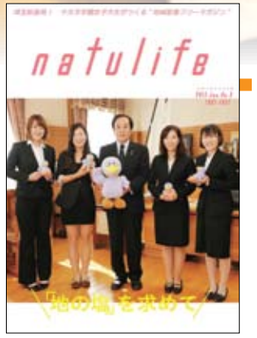
メディア制作にかける熱い想いを語る

共通科目である十文字学の「総合ゼミ」とメディアコミュニケーション学科の授業では、学生が主体となりフリーペーパーを制作し、地域に向けて発信している。

今年1月に発行した『ナチュライフ十文字』『十文字メディアニュース』の各編集長を務める大嶋理恵さん（コミュニケーション学科3年）、衣笠明莉さん（メディアコミュニケーション学科2年）が、2月6日（水）、埼玉県内の生活情報を日替わりで発信するテレビ埼玉の情報番組「ごごたま」の情報コーナーに出演した。

大嶋さんは、地域の情報を発信し、その魅力を伝える『ナチュライフ十文字』を、衣笠さんは、テレビ埼玉、FM NACK5、埼玉新聞をはじめ関東地域のメディア関連のニュースなどを掲載する『十文字メディアニュース』を紹介。

放送では、2人が記事のポイントを説明。取材時のエピソードや、深く印象を受けたことなどについて語り、これからの地域メディアの在り方を考える内容となった。また、番組を通じて、編集長2名のメディア制作にかける想いが視聴者に伝わった。（広報課 原一彰 記）



女子大生の目線で地元の魅力を発掘するフリーペーパー『ナチュライフ十文字』。

地元メディア関連のニュースを新鮮な切り口で発信する新聞『十文字メディアニュース』。

大嶋編集長（左）と衣笠編集長が「ごごたま」の情報コーナーに生出演した。

シーラ先生がBS朝日で日本の美をナビゲート

古くから結びつく日本人と梅の関係

シーラ・クリフ先生。母国イギリスにも積極的に日本文化を伝える。

2月15日（金）に放送されたBS朝日の番組「エコの作法～明日の美しい生き方へ～」に、短期大学部表現文化学科教授で服飾文化研究者のシーラ・クリフ先生が出演した。

「日本に息づく自然への想い」を伝える同番組の第49回目のテーマは「報せる × 梅」。クリフ先生がナビゲート役を務めながら、日本人と梅の花とのかかわりを探っていった。

雪が解けるとぽつりぽつりと咲く梅の花が、春の訪れを報せてくれる――。

番組冒頭、クリフ先生は自宅庭で梅の木を剪定しながら、枝の切り口に赤い色素を認め、梅はつぼみの時期からすでに体内に花の色を蓄えていることを示す。梅の木は丹念に剪定を行うことで、見栄えの美しさが生まれる。つまり、人の想いが込められているのが梅の特徴なのだ。

梅が花をつけるのは1年目の若枝だけ。3年を過ぎた枝は幹のような風格をそなえはじめる。ごつごつとした老木に若枝が可愛らしい花をつける姿に、人間の味わいを見て取るクリフ先生。

また、個性豊かな梅の数々（京都府「北野天満宮」）、尾形光琳の国宝「紅白梅図屏風」（静岡県熱海市「MOA美術館」）、現代風にアレンジされた和風テキスタイル（神奈川県横浜市「濱文様」）など各地で息づく梅の姿をナビゲート。そのほか、石川県金沢市「落雁 諸江屋 本店」で作られる落雁の材料には、その昔、城に備蓄されていた保存用の米の中から払い下げられたものを使用していたことも紹介。古米も無駄にはしないエコな心配りが認められる。

時空を超えて受け継がれる日本人と梅との結びつきを求めて、全国各地を訪れるクリフ先生の和服姿にも、色鮮やかな梅の花が咲いていた。

（表現文化学科 准教授 小林実 記）

本学冠講座「彩の国……」をJ:COMが6回にわたって放送

『埼玉県謎解き散歩』執筆者が語る埼玉の魅力

新人物往来社の飯田日出男代表取締役社長（2012年7月25日撮影）。

本学でJ:COMの清水勇番組プロデューサーから取材を受ける宮内正勝氏。

新人物往来社とのコラボレート企画として全14回にわたり開催された、本学の冠講座「『彩の国』を抱きしめて」が、このほどケーブルテレビJ：COMで連続放送された。

本講座では、新人物往来社から発刊された『埼玉県謎解き散歩』の執筆者が教壇に立ち、食や文化、歴史など、さまざまな視点から埼玉の魅力を語ることで、学生に埼玉に対する正しい認識を持ってもらう目的で展開された。

全14回の中から、一般にも馴染みやすい6つのテーマに絞り込み、それぞれを5分程度にまとめたものが、繰り返しJ：COMの地域情報番組内で紹介された。紹介の内容は左表の通り。

（総務部長兼広報課長 木名瀬正行 記）

放送内容

第1回「埼玉の祭り『それぞれに意味が込められた四季折々の祭り』」	（講師:大久根茂氏）
第2回「埼玉の城と合戦『のぼうの城』だけじゃない埼玉の城と合戦の歴史」	（講師:梅沢太久夫氏）
第3回「埼玉の女性史『我が国初の公許女医・荻野吟子』の生涯をたどる」	（講師:宮内正勝氏）
第4回「埼玉の農業『深谷ねぎ』」	（講師:河田重三氏）
第5回「埼玉の鉄道『過去に存在した幻の鉄道から現在の鉄道まで～埼玉の交通事情～』」	（講師:中山正則氏）
第6回「さきたま古墳群と国宝『辛亥銘鉄剣』の謎を探る」	（講師:金井塚良一氏）

式典後に行われた「卒業を祝う会」。

Graduation
卒業式の晴れ着に込めた756名の決意

桜のつぼみがぽつりぽつりと開きはじめた暖かな日に本学から756名が巣立ちました。

卒業生代表として挨拶する加園理沙さん。

卒業生を激励する十文字一夫理事長。

予測不能な世の中でも「知恵」で活路を見出そう

平成24年度十文字学園女子大学、短期大学部、大学院の学位記授与式、留学生別科の修了式が3月19日(火)に行われた。

大学(社会情報学部／人間生活学部)から652名、短期大学部から80名、大学院から7名、留学生別科から17名の計756名に卒業証書が授与され、記念ホールを埋めた保護者、学長、理事長、教職員らから祝福を受けた。

横須賀薫学長は式辞で、「雑草の姿」を人生に見立てた植物学者・稲垣栄洋氏の言葉を引用し、「皆さんを待ち受けている世の中は『予測不能な環境』であり、力まかせに乗り越えていくことは難しい。それぞれの知恵を存分に発揮して、不安定な時代もたくましく生き抜いてほしい」と、大学時代に培った「生きた知恵」を社会で活用する大切さを強調した。

続いて祝辞に立った十文字一夫理事長は、「『ありがとうございます』と『おめでとうございます』の2つの言葉を大切にしてほしい。この2つの言葉を社会に出て大事に使うその先に、皆さんの社会での活躍がある」と激励した。

これを受けて、卒業生代表の加園理沙さん(短期大学部文学科英語英文専攻)は、「授業では、少人数教育というとてもぜいたくな環境で勉強でき、知識や技術の向上につながったと思います。日常の一つひとつがかけがえのない思い出です」とふり返り、「社会に出るとさまざまな困難にぶつかるかもしれませんが、学園歌にある『世の中に たちてかひある人』になるよう努めます」とお礼の言葉を述べた。

(取材・文／福島茉莉記者)

Enrollment

入学、おめでとう！ 845名の新入生が仲間入り

人から信頼される女性を目指して

4月5日(金)、早咲きの桜も845名の新入生を待つようにその花びらを残していた。横須賀薫学長は式辞の冒頭で、大学生活で留意してほしい点を述べたうえで、「十文字での生活を通してそれぞれの道を開拓されることを祈っています」と激励。十文字一夫理事長は「女性としての美しさは優しさ、温かさ、思いやり、強さ。立派な人間としてはばたくことを目標に、学生生活を送ってほしい」と説いた。

また、新座市教育委員会教育長金子廣志氏からは「地域に目を向け絆を深めてほしい」、埼玉新聞社相談役および本学特命教授である丸山晃氏からは「学生時代に課題解決力を身につけ、実践力のある人材に」と温かい言葉をいただいた。

これを受け、新入生代表の牧野菜奈さん(人間生活学部幼児教育学科)は「努力を惜しまず目標を持ち、人から信頼される社会人を目指したい」と誓った。保護者からは「自立した女性に成長してほしい」との声も聞かれ、新入生は先を見すえて一歩を踏み出した。

(取材・文／高根利佳記者)

卒業生インタビュー

石の上にも3年 道は必ず開ける

人間発達心理学科卒 近藤春美さん

学科の代表として壇上で学位記を受けとった近藤春美さんは、本学に入学する前は保育園の園長だった。「同期生のお母さんより年上、お婆ちゃんより年下」と笑いを絶やさない近藤さんは、開口一番「先生や友人が支えてくれたからこの日を迎えることができた」と語った。

「十文字は自分が求めれば存分にバックアップを受けられる体制が整っている。例えば、英語。長年使用することがなく、すっかり忘れてしまっていた英語が必修授業だったため入学当初は困っていたが、先生が空いた時間に指導をしてくださったので理解できるようになった。先生方はとてもフレンドリーなので遠慮せずに質問ができた」と近藤さん。また、在校生に対しては「『石の上にも3年』。何があっても最初の3年間は頑張ってほしい。必ず道が開ける」と晴れやかな表情で語ってくれた。

(取材・文／荻原有莉記者)

平成25年度「十文字学」

冠講座・総合ゼミ ラインアップ

働く女性に必要な教養を学ぶ共通科目「十文字学」。社会で活躍する企業人、プロの講義・実習から豊かな学びの場が広がっています。

冠講座・前期

木曜日 4限 公益財団法人生命保険文化センター
「生命保険のしくみと機能」

医療、介護から自動車まで

内容
生命保険文化センターの協力を得て、生命保険の仕組みと機能を基礎から学ぶ授業。生活設計からリスク管理まで、ライフプランを作成したうえで、生命保険のしくみについて学習します。さらに、医療保険、介護保険などについても触れます。また、講座の一部では損害保険協会の協力を得て、自動車保険や住まいの保険などの損害保険について知識を深め、最後に、生命保険会社の業務について理解を目指します。

担当
込江雅彦准教授

水曜日 4限 近現代をさかのぼる有識者の会
「お爺さんとお婆さんが語る日本の近現代史」

生活に密着した切り口で

内容
学生にとっては自分の祖父母と同じ年代、まさに“お爺さん”“お婆さん”といえる各界の有識者を招き、江戸時代以降の近現代140年間で築きあげられた生活基盤や女子教育の変遷、都市構造の変化、官僚の役割などについて、生活に密着した切り口からお話いただきます。

担当
岡林正和教授

火曜日 5限 春風社
「『本』を読む、書く、作る、売る、をめぐって」

本の文化を広く知り自らを耕す

内容
この講座ではいくつかのジャンルの実作者をゲストとして迎え、広く「本」にかかわる文化（culture）、表現の諸相を学びます。cultureは「文化」と訳されますが、「教養」をも指す用語です。A man of cultureといえば、教養（のある）人、またcultureの由来はcultivate（耕す）です。言葉や映像、写真表現にかかわる人の語りをもとに、出版をはじめ、広くcultureを知る機会を提供し、自らを耕すきっかけになることを企図します。

担当
小林実准教授

冠講座・後期

木曜日 4限 野村證券
「株式市場からみる日本経済」

金融について幅広く学ぶ

内容
野村證券株式会社に協力いただき、証券など金融分野についてさまざまな視点から学習します。具体的には、金融全体、外国為替、日本経済の現状、証券会社の業務など、金融に関する幅広い分野の講義を行います。

担当
込江雅彦准教授

水曜日 4限 大手企業トップ
「変貌する産業界への探訪」

13名の有名企業トップが解説

内容
昨年に続き、大きく変貌しつつある産業界の現状を、各産業界に精通されている企業トップがわかりやすく解説。女性社員に望むことも話していただく予定です。

講師予定者 三菱商事株式会社 小林健社長／三菱自動車工業株式会社 益子修社長／三菱UFJリース株式会社 白石正社長／株式会社ニコン 木村眞琴社長／日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社 渡辺正夫社長／トッパン・フォームズ株式会社 櫻井醜社長／大洋塩ビ株式会社 有馬雄造社長／キリンビール株式会社 磯崎功典社長／イオン株式会社 横尾博専務／東急不動産株式会社 小倉敏専務　他

担当 岡林正和教授

火曜日 5限 トップスポーツビジネス研究会
「スポーツをする・観る・ささえる」

最前線から学ぶスポーツ界の実情

内容
スポーツ最前線にかかわる方を講師に招き、スポーツや健康分野が抱えるタイムリーな話題を取り上げます。スポーツを「する・観る・ささえる」３つの側面を学ぶ機会を提供し、将来、この成長分野で活躍できる人材の育成を目的とします。

講師予定者 プロゴルファー・解説者 タケ小山氏／フジテレビジョン 特区推進部副部長 能智大介氏／トライアスロンオリンピック選手 井出樹里氏／スポーツマネジメント株式会社社長 脇田英人氏／タレント（ペナルティ）ワッキー氏／NHKアナウンサー 一柳亜矢子氏／バドミントン元日本代表監督 小島一夫氏　他

担当 石山隆之特任准教授

火曜日 4限 毎日新聞社
「毎日新聞女性記者からのメッセージ」

多彩な分野の現役記者が登壇

内容
毎日新聞社との連携講座。多様な領域で活躍する女性記者から、日々の体験にもとづいた話を聞くことで、新聞社の社会的使命を認識し、学生自身が自分の将来について考え、社会人になるための心構えなどを学ぶことが狙いです。女性記者が活躍する分野・領域は、社会、生活家庭、科学環境、学芸、編集、校閲、英字新聞、事業、書籍編集などさまざまです。

担当
橋本ヒロ子教授

総合ゼミ・通年

金曜日 2限 フリーペーパー『ナチュライフ十文字』制作

女子大生目線で発掘する地域の魅力

内容
学内取材が中心の『新座キャンパスだより』とは対照的に、『ナチュライフ十文字』の制作ではキャンパスから街へ出て取材し、女子大生の感性を生かして地域おこしにも一役買うことが狙いです。前号では、埼玉県知事や十文字学園の先輩・三原じゅん子参議院議員のインタビューのほか、埼玉の巨人・渋沢栄一翁の足跡をたどる企画などを展開し、メディアの注目も浴びました。編集会議を重ねてテーマを練り、記事・写真・DTP編集の実践力を深めます。

担当
大西正行教授

水曜日 3限 国際目線で『WEBマガジン』制作

留学生が綴る記事を国内外に発信

内容
女子留学生（1～4年生）の国際的な目線で、キャンパス内外で日本文化と母国の文化との違いに触れたときの感動を取材執筆し、WEBマガジンで表現。その成果を本学ホームページにリンクし、国内外に発信。平林寺や本学内の取材を一緒に進め、国際交流の意義を深めたい日本人学生の受講も歓迎します。留学生はWEB制作の過程で、日本語能力を高め、日本文化の奥深さを体験します。

担当
池間里代子特任准教授／小笠原典子教授／北原俊一准教授／大西正行教授／仇暁芸講師

水曜日 2限 海外探訪（日本に関係深い国々の生い立ち、国民性、そして現状の研究）

海外の実際について知ろう

内容
「インド人はコブラより怖い、コブラより先にインド人を叩け」――これはタイの古い言い伝えだ。また、ベトナムで人気がある国は日本とアメリカであり、隣国中国はそうでもない。フィリピン国旗の色は何を表わすのか。世界にはまだ知らないことがたくさんあります。ゼミでは、日本に関係の深い国々について自らの手で調べ、ガイドブックを作ります。さまざまな海外経験を持つ講師も時折参加し、おもしろい話を披露してくれます。

担当
岡林正和教授

月曜日 4限 『新座キャンパスだより』制作

学内の今を伝える冊子づくり

内容
新座キャンパスの主役である学生・先生と職員が織りなす学びや課外活動を、受講生のみずみずしい感覚で取材・執筆・編集し、四季折々の行事が反映されたマンスリー版と、OGにも読んでもらえる本誌『新座キャンパスだより』に掲載します。最大の学内イベントである秋の「桐華祭」や式典はもとより、本誌40号のように学生特報班による本学の先生へのインタビューなども企画。記事の書き方だけでなく写真やDTPも学びます。

担当
大西正行教授

2013年度 教員役職紹介

副学長（教育担当）／リメディアル教育センター長／教職課程センター長
増田吉史

副学長（総務担当）／大学院研究科食物栄養学専攻主任
志村二三夫

学長／大学院研究科長
横須賀 薫

留学生別科長／国際交流センター長
大西正行

学長補佐／メディアコミュニケーション学科長
安達一寿

副学長（財務担当）／事務局長
瀬倉通利

副学長（募集・就職担当）／キャリア教育センター長
橋本ヒロ子

特別支援教育センター長
岩井雄一

健康管理センター長
齋藤麗子

情報センター長
田中 茂

図書館長
東 聖子

人間発達心理学科長
綿井雅康

児童教育学科長
山本 悟

幼児教育学科長
山田陽子

大学開放・地域連携推進センター長
星野敦子

表現文化学科長
武田比呂男

生活情報学科長
田倉 昭

人間福祉学科長
栗原直樹

食物栄養学科長
名倉秀子

人事異動（2013年4月1日付）

教員

【大学】

＜退職＞定年退職（2013年3月31日付）
人間生活学部教授…… 赤井美智子
同教授…… 流田 直
同教授…… 牧村信之

＜新任・特別任用教員＞
人間生活学部教授…… 岡林正和
人間生活学部講師…… 権 明愛
人間生活学部有期助手…… 井上知香
21世紀教育創生部教職課程センター教授
…… 宮川保之
21世紀教育創生部特別支援教育センター
准教授…… 吉川知夫
21世紀教育創生部特別任用教授
…… 草野一紀
21世紀教育創生部特別任用准教授
…… 池間里代子
同特別任用准教授…… 石山隆之
留学生別科特別任用講師…… 仇 暁芸

＜客員教授＞
客員教授…… 渡辺 保
客員教授…… 佐々木正峰

＜特命教授＞
特命教授…… 大橋佳代子
特命教授…… 郝 志強
特命教授…… 玉井常裕
特命教授…… 関 潤一
特命教授…… 丸山 晃

＜所属変更＞
栗﨑純一
（人間生活学研究科食物栄養学専攻兼食物栄養学科 教授）
森 三樹雄
（人間生活学研究科食物栄養学専攻兼食物栄養学科 教授）
山本 茂
（人間生活学研究科食物栄養学専攻兼食物栄養学科 教授）
高橋京子（21世紀教育創生部リメディアル教育センター兼児童教育学科 教授）

＜昇任＞
人間生活学部教授…… 池田まさみ
同教授…… 小林三智子
人間生活学部准教授…… 綾井桜子
同准教授…… 木村靖子
同准教授…… 野島靖子
同准教授…… 阿部 史
同准教授…… 田中東子
人間生活学部講師…… 石田有理

＜役職＞新規
副学長（財務担当）…… 瀬倉通利
学長補佐…… 安達一寿
図書館長…… 東 聖子
情報センター長 …… 田中 茂
幼児教育学科長…… 山田陽子
食物栄養学科長…… 名倉秀子
生活情報学科長…… 田倉 昭

【短期大学部】
＜退職＞（2013年3月31日付）
表現文化学科准教授…… 平野多恵

【幼稚園】
＜退職＞任期満了含む（2013年3月31日付）
教諭…… 遠藤秋乃
主事（嘱託）…… 大井登子

＜役職＞新規
主事…… 竹迫久美子

＜新任＞
教諭…… 田中未歩
教諭…… 平野亜季

事務職員

＜役職＞
事務局長兼副学長（財務担当）
…… 瀬倉通利
学長特命部長…… 岡本英之
総務部長及び広報課長事務取扱
…… 木名瀬正行
総務部次長及び総務課長兼管財課長事務取扱…… 柳澤貞夫
総務部次長及び人事課長事務取扱
…… 笠木貴和子
企画評価課長…… 荒川仁志
会計課長…… 樫本圭司
社会交流・研究支援部長 …… 安達貞治
社会交流・研究支援部次長 …… 田村雄二
社会交流支援課長…… 高田佳織
研究協力課長…… 鈴木正章
学生支援部長…… 松崎正代
学生支援部次長及び教務課長事務取扱
…… 小池哲夫
学生支援部次長…… 川口憲次
教職支援課長…… 岡本美紀
学生生活課長…… 小貫裕巳子
就職支援部長…… 本間 修
就職支援部次長及び就職支援課長事務取扱…… 郡司忠正
就職支援部次長…… 高野 明
募集・入試部長 …… 藤井宏昌
募集・入試部次長 …… 宮原隆宏
募集・入試課長 …… 鈴木俊太郎
募集開発課長…… 浅川隆一
国際交流支援部長及び国際交流支援課長事務取扱…… 大石 聡
学術情報部長…… 近藤秀二
図書課長…… 安達美奈子
教育研究システム課長 …… 井頭雄二
事務システム課長 …… 戸塚勝美
カウンセラー室副室長（課長）…… 進藤なり子

本学学生が大健闘 昨年を超える就職率を確保

依然、大卒者の就職状況が低迷するなか本学の学生は90％以上が内定を獲得。4月より、各就職先で新たな一歩を踏み出しました。

キャリアセンター長　本間　修

就職活動開始時期が2カ月後ろ倒しに

平成24年度卒業生の就職活動は、経団連の倫理憲章見直しにより、活動開始時期が3年生の10月から12月へと2カ月後ろ倒しになった。学業への配慮と早期からの過熱を避ける措置であるが、「業界研究の時間や企業説明会参加の機会が足りない」などの負の部分もあり、“活動への焦り”を感じた学生もいたようである。

昨春には「大卒者の次年度採用計画が12・1％増加」という新聞報道もあり、大卒者採用の低迷期間が続くなかでの明るい情報が伝わったが、採用に関して「数合わせはしない」という企業の厳選採用姿勢に変化はなく、多くの学生が前年同様に厳しい活動を余儀なくされた。事実、厚生労働省「大学等卒業予定者の就職内定状況調査」（2013年2月1日現在）では、大学生の女子で82・0％と前年比で1.7％の増加となったものの、リーマンショック前の水準には届くことはなかった。

人間福祉学科の就職希望率就職率ともに100％

さて、本学の就職状況であるが、今年度も幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、栄養士、介護職など、専門職への就職は順調に就職率を上げ、3月末現在で100％もしくは100％に近い就職状況となっている。特に、人間福祉学科では卒業生全員が就職先を確保（就職希望率、就職率とも100％）する結果となり、“完全制覇”を成し遂げることができた。一方、事務や営業、サービスといった一般就職においても90％以上の内定状況となっており、昨年以上の就職率を確保した。

卒業生が就職先で長く在籍し、活躍

キャリアセンターでは昨秋、各企業の協力を得て卒業生の在籍調査を実施した。そのなかで非常に多くの卒業生が入社後も長年在籍し活躍しているという実態を把握することができた。さらに、多くの企業から本学卒業生に対する称賛の言葉もいただいている。今の時代、もはや女性の力なくして社会は成り立たないが、卒業生がその期待に応えて活躍していることに、本学関係者として喜びを感じ、誇りに思う。在学生には十文字学園での学びを糧に、このような卒業生の後に続いてほしいと願うとともに、これからもその支援に全力を注いでまいりたい。

学内企業合同説明会を開催

62社が参加
学生は企業担当者と積極的に交流

2月4日（月）～6日（水）の3日間にわたり、本学7号館1階カフェテリアおよび8号館各教室で学内企業合同説明会を開催した。62社の企業にご出席いただき、延べ545名の学生が参加した。

参加企業の業種は、製造、商社、小売、金融など多岐にわたる顔ぶれ。学生は採用審査本番さながらにリクルートスーツに身を包み、関心のある企業ブースの前で採用担当者の説明に熱心に聞き入り、質問したりメモをとったりと、積極的な姿が見られた。説明会終了後は各企業の担当者、本学教職員を交えて懇親会を開催し、活発に情報交換を行った。

Data 2012年度卒業生の主な就職先

社会情報学部

- アクトセンター
- 朝日エル
- インフォテック
- ウチノ看板
- エービーシーマート
- NECモバイリング
- NTTコミュニケーションズ
- 医療法人社団新生会 大宮共立病院
- カルビー
- かんぽシステムソリューションズ
- キクロン
- 熊谷青果市場
- グルメデリカ
- クロスカンパニー
- クロステレビビジョン
- 警視庁職員信用組合
- ケイテクノ
- ケーオーデンタル
- 三陽商会
- しげる工業
- ジャパン建材
- 新宿高野グループ
- オンワード樫山
- 西武開発
- セブン&アイフードシステムス
- セブン・イレブン・ジャパン
- 太平電業
- 蓼科情報
- タリーズコーヒージャパン
- チコタ
- 都築電気
- ツツミ
- DTS
- 東彩ガス
- 東都保健医療福祉協議会
- 東横イン
- ナブコシステム
- 南彩農業協同組合
- 日新工業
- 大宮氷川神社
- ピックルスコーポレーション
- プリチストン
- マイナビ
- 三越伊勢丹ヒューマン・ソリューションズ
- ヤオコー
- 八潮建材工業
- ヨークマート
- リコージャパン
- ロックペイント

人間生活学部

【幼児教育専攻】

- ◇**公立保育所**
- 葛飾区
- 品川区
- 練馬区
- 小平市
- 府中市
- 川越市
- 久喜市
- さいたま市
- 鶴ヶ島市
- 戸田市
- ◇**私立幼稚園**
- 板橋向原幼稚園
- いわさき幼稚園
- 浦和みずほ幼稚園
- かきの木幼稚園
- 柏幼稚園
- 片柳幼稚園
- 上河内幼稚園
- 亀田幼稚園
- 川越双葉幼稚園
- 恵泉幼稚園
- 絹ふたば文化幼稚園
- 栗橋さくら幼稚園
- こうま幼稚園
- 幸手白百合幼稚園
- さなえ幼稚園
- 城山幼稚園
- 武里白百合幼稚園
- 野田聖華幼稚園
- のはら幼稚園
- 吹上中央幼稚園
- 双葉台幼稚園
- まきば幼稚園
- 三尻幼稚園
- 宮原幼稚園
- 八潮幼稚園
- 大和郷幼稚園
- 与野幼稚園
- ◇**私立保育所**
- 入船北保育園
- くりのみ保育園
- 小岩みどり保育園
- 至誠保育園
- 下田保育園
- 石神井町さくら保育園
- 信愛保育園
- 第二はちの巣保育園
- たねの家保育園
- とだ虹保育園
- 貫井保育園
- 富士見れんげ保育園
- ルーテル保育園
- 若草保育園
- ◇**施設**
- すぎな愛育園
- ◇**学童**
- 大宮南なかよしキッズ

【児童教育専攻】

- ◇**小学校教諭**
- 埼玉県
- さいたま市
- 東京都
- ◇**私立幼稚園**
- 浦和つくし幼稚園
- 浦和みひかり幼稚園
- つくしの幼稚園
- 常盤幼稚園
- 守谷幼稚園
- ◇**公立保育所**
- 越谷市
- 新座市
- 板橋区
- 葛飾区
- 江東区
- 国立市
- 南砺市
- ◇**私立保育所**
- 茶々おおいずみ保育園
- ◇**福祉施設**
- 社会福祉法人松葉の園 まつば園

【食物栄養学科】

- ◇**公務員（栄養士職）**
- さいたま市
- ◇**一般企業（栄養士職）**
- 社会福祉法人愛和会
- アスモ
- 社会福祉法人永寿荘
- 栄養食
- エームサービス
- エムティーフード
- 社会福祉法人太田松翠会 かなやま学園
- 社会福祉法人共愛会
- グランディック
- グリーンハウス
- こどもの森
- 湖山医療福祉グループ
- セブン&アイフードシステムス
- 東京天竜
- 東洋食品
- 社会福祉法人どろんこ会

【人間福祉学科】

- ◇**福祉専門職**
- 医療法人育秀会
- 社会福祉法人栄光会 特別養護老人ホーム さいたまロイヤルの園
- 社会福祉法人啓和会
- 湖山医療福祉グループ
- 社会福祉法人コロロ学舎 瑞学園
- 社会福祉法人狭山福祉会 特別養護老人ホームさやまの苑
- 社会福祉法人サンフレンズ
- 社会福祉法人品川総合福祉センター
- 社会医療法人社団 新都市医療研究会[関越会 介護老人保健施設すみよし
- 社会福祉法人杉並区社会福祉協議会
- 社会福祉法人東京都知的障害者育成会
- 社会福祉法人戸田市社会福祉事業団
- 社会福祉法人臼十字会 特別養護老人ホーム臼十字ホーム
- 社会福祉法人東松山市社会福祉協議会 東松山市総合福祉エリア
- 社会福祉法人福田会 児童養護施設 福田会東京本院
- 社会福祉法人ホザナ園
- 社会福祉法人武蔵野会 練馬福祉園
- 社会福祉法人川口市社会福祉事業団
- 社会福祉法人優美会 特別養護老人ホーム とだ優和の杜
- 社会福祉法人多摩養育園
- ◇**一般企業等**
- 社会医療法人財団石心会 川崎幸病院
- 社会福祉法人なごみ福祉会
- 社会福祉法人菜の花会
- 日京クリエイト
- 日清医療食品
- ニラス
- ハーベスト
- 葉隠勇進
- 富士産業
- ベストフードサービス
- ミールケア
- メフォス
- ユニマットそよ風
- LEOC
- ◇**一般企業**
- ウエルシア関東
- エスケーフーズ
- NKSJビジネスサービス
- カワチ薬局
- キユーピー
- 京橋干疋屋
- クリエイトエス・ディー
- グルメデリカ
- 国際学院埼玉短期大学
- ココカラファイン ヘルスケア
- ジャヴァグループ
- 田辺薬局
- 東京カネカフード
- 東邦薬品
- 東和銀行
- 巴コーポレーション
- ナックスナカムラ
- 野田ガス
- ぱぱす
- 松崎商店
- 丸和油脂
- 美高商事
- 三越伊勢丹ヒューマン・ソリューションズ
- みよの台薬局グループ
- りそなグループ
- ルネサンス
- ロッテリア
- 三越伊勢丹ヒューマン・ソリューションズ

【人間発達心理学科】

- ◇**養護教諭**
- 埼玉県
- 茨城県
- 東京都
- 千葉県
- 静岡県
- 長野県
- ◇**公務員**
- 横浜市
- 大泉町
- ◇**一般企業等**
- アライ電機産業
- 一蔵
- ウィングル
- NX
- M-TEC
- エン・ジャパン
- オンワード樫山
- キッズベースキャンプ
- 埼玉信用組合
- 社会福祉法人彩明会 児童デイサービスやまと
- 社会福祉法人新栄会
- 社会福祉法人砂原母の会
- 第一生命
- 東京多摩青果
- 東京富士青果
- ナチュラルプランツ
- ニチアスウレタン
- 日本ステリ
- 日本デイケアセンター
- 社会福祉法人はーとふる
- 富士薬品
- ベネッセスタイルケア
- ポイント
- ホンダカーズ埼玉
- 三井住友銀行
- 三越伊勢丹ヒューマン・ソリューションズ
- 社会福祉法人武蔵野 童養護施設杜の郷

短期大学部

- 赤坂柿山
- 医療法人社団 歯友会 赤羽歯科
- アサンテ
- いるま野サービス
- オンワード樫山
- 花王カスタマーマーケティング
- 梶原工業
- カワチ薬局
- 関東ITソフトウェア健康保険組合
- コスモ調剤薬局
- 広友ホールディングス
- J.C.O.S
- サイケイ
- 沢田本店
- 三立建設
- 大観社
- 巴コーポレーション
- トヨタレンタリース東京
- 中川製作所
- 日健クリニック健康管理センター
- 野添
- 阪神調剤薬局
- 福島封筒
- ボディーワークホールディングス
- 松風屋
- 三越伊勢丹ヒューマン・ソリューションズ
- ミリカンパーリミテッド 山崎工務店

＼総勢71名の学生が参加／

自己成長ワークショップ
聴く、話す、書く力に自信

1、2年生対象の「自己成長ワークショップ（就職基礎力養成合宿）」が
2月17日（日）・18日（月）の2日間にわたり開催されました。

コンフォートゾーンから一歩踏み出そう

国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された「自己成長ワークショップ（就職基礎力養成合宿）」には、本学から講師として、就職支援で定評がある「森ゼミ」を主宰する森吉弘氏、飛鳥井郁枝氏、さらに教員と総勢71名の学生が参加した。

合宿では、コンフォートゾーン（自分の心地よい世界）から一歩踏み出すことを共通の認識として、さまざまなペアワーク・チームワークを積極的に行いながら、聴く力、話す力、書く力の基礎力を身につけることができた。特に、12チームで実施したプレゼンテーションの対抗戦では、全員が強い参加意識を持って取り組み、各チームとも内容のある発表を披露することができた。2日間という短期間であったが、合宿終了時に見せた学生の笑顔と自信に満ちた表情は、この合宿の成功を物語っていた。

（キャリアセンター長 本間修 記）

参加学生レポート

プレゼンが楽しい！殻を破る心地よさを体験

報告者：メディアコミュニケーション学科３年 峯村友子

「自己成長ワークショップ」で講師を務めていただいた森吉弘先生と飛鳥井郁枝先生の講座は、過去に受講したことがあった。そこでは、「今ある自分を否定しなくていい」ということを感じられた。そのため、今回の合宿にもリラックスしてのぞむことができた。しかし、実際にその場所に立つと、今いる場所から自分は一歩踏み出せるのか、という不安もあった。

プログラムは、この合宿への参加目的を明確にし、さらに「1年後どんな自分になっていたいか」を考えることから始まった。その後は、他者と円滑にコミュニケーションを取るうえで必要な心遣い・おもてなしや自分の思いを表現するプレゼン力などについて、講義を受けた。

講義だけでなく、ペアを組んで行ったお互いの取扱説明書作成、「ありがとう」を伝えたい人への手紙や「自分企画書」の作成などさまざまなワークに取り組んだ。時間内で相手のことを引き出し聞き取ることや自分の思いを正しい文章で伝えることの難しさを知った。

2日間を通して、新しい考え方や参加学生のやる気などに触れ、多くの刺激を受けた。

その中でもっとも印象的なのが、チーム対抗プレゼン大会。私は、人前に立ち発表することが苦手だったが、この日は楽しむことができた。もちろん不安や緊張もあり、発表が終わり次の発表者にマイクを渡したときは、手が震えていた。それでも楽しいと感じたのは、原稿を読まずに自分の言葉で「ぶつかった」からだと思う。「ぶつかる」というのは、聴き手と自分の間に原稿を挟まず、相手を見て話すことから始まると実感した。挑戦してみれば意外とできるんだ、と自信になった。テーマであった「コンフォートゾーン」を一つ破った瞬間だった。踏み出すのは怖いけれど、あのドキドキ感は心地よかった。

「学生記者特報班」発

この先生に会いたい

教員インタビュー
石山隆之特任准教授

名門・十文字高校の伝統を活かし大学の女子サッカー育てて！

「十文字高校サッカー部」を全国トップレベルに育てた石山隆之監督（十文字中学・高等学校教諭）が、本年度から本学の特任准教授に就任し、大学サッカー部の育成強化にあたることになりました。本誌編集局は石山先生に、女子サッカー界の実情や本学サッカー部の今後について、お話をうかがいました。

（取材・文／豊田菜津江記者）

――女子サッカーがさらに日本に定着するために何が一番必要でしょうか。

女子サッカーが注目されたのは、FIFA女子ワールドカップの優勝やオリンピックでの銀メダル獲得が引き金になりました。しかし、ここで忘れがちなのは、日本の女子サッカーの約30年におよぶ歴史の重さです。それが、近年のなでしこジャパンの活躍で一気に花開いたわけです。私たち女子サッカー関係者としては今までの積み重ねが世間に広まったに過ぎず、これからも女子サッカー人口を増やす普及・育成活動が必要です。

――国際的にとらえるとどうでしょうか。

日本では女子サッカー人口の増加に伴いレベルが向上し、優秀な選手も増えました。ただし世界を見渡せばプロリーグがあるのはアメリカのみで、サッカーが盛んなヨーロッパ各国の女子リーグでさえ、一部のチームにプロ選手が若干いるだけです。日本女子サッカーの最高峰「なでしこリーグ」においても、一部プロ選手はいるもののリーグ全体では厳密にはプロと言えないのが実情です。プロリーグでないと、長くサッカーを続けた選手の受け皿として機能しません。

もっとも、男子のようにビジネス色を強めてプロ化すればいいかといえばそうではなく、女子サッカーには女子サッカーならではの楽しみ方や役割があるのです。例えば、女性には仕事以外にも、結婚や出産など大事なことがたくさんありますよね。女性が社会でしっかりと生きていくためにトップリーグだけを目指すのではなく、サッカーを通して人生の勉強をする選択肢になります。

全国高校選手権大会の準決勝延長戦で惜敗した十文字高校（2011年8月）。

――現在の十文字高校のサッカー部の前身である「十文字高校サッカー同好会」が石山先生を中心に発足し、現在のサッカー部の原点となりました。十文字学園のサッカーの今後の展望についてお聞かせください。

発足当時、十文字高校の「サッカー同好会」は、サッカーを楽しむことが目的でしたが、現在は近い将来日本一になることを目標にしており、時代時代の選手の現状に合わせて意識を高めていきました。指導方針は練習の質を上げるようにすること。そして部員と指導者が心と心をぶつけ合い、目標を共有すること。頑張った分、結果がついてくればなおいい。たとえ結果が出なくても、目標に向かう過程が部員を成長させてくれるのです。

この空気のなかで鍛えられた横山久美選手は、十文字高校から十文字学園女子大学の特待生になり、現在プロとして活躍中です。今後もさらに、「十文字」サッカーの伝統を受け継いで国内外で活躍してくれる人を育てていきたいですね。

――本学の学生にメッセージをお願いします。

2つのC、「Challenge」「Change」を意識してください。自分を変える機会はどこにでもあるのでたくさん挑戦してほしい。私自身は「2つのC」にひたむきな学生に、気づきを与える手助けをしたい。スポーツは学園を元気にする力があります。女子サッカーを通じて貢献していきたいと思っています。

Profile

いしやま・たかゆき◎日本体育大学卒業。早稲田大学大学院修士課程修了。トップスポーツビジネスを研究。1995年に十文字中学・高等学校教諭、2013年4月に本学特任准教授に着任。JFA公認A級コーチジェネラル。関東高体連女子サッカー部女子委員長、東京都高体連女子サッカー部女子委員長、26年度東京開催の高等学校総合体育大会準備委員会委員長、前東京国体監督。

ゾウキリンくらぶが全国・学内で報告会

他ボランティア団体との連携に期待

2月22日(金)、学内において「福島支援活動」の報告勉強会を開催した。これは、地域連携ボランティアサークル「ゾウキリンくらぶ」が24年度に取り組んできた福島観光復興プロジェクトのまとめにあたる。

当日は、福島支援プロジェクトの活動報告の後、東北大学の藤原充啓先生の講義「放射線の基礎知識」を受け、あらためて放射線に関する情報や知識の整理を行った。また本報告会には、プロジェクトの活動のひとつ、福島合宿でお世話になった、福島大学災害ボランティアサークル代表の安達隆裕君(福島大学4年)も参加して、ボランティア活動や被災者の現状について報告してくれた。

お茶を飲みながらの和やかな会であったが、講義や報告を聞く参加者の様子は真剣そのものであった。福島合宿以来、久しぶりに顔を合わせたメンバーもいて、1年間の活動の区切りとなるよい会となった。

また3月5日(火)には、今回の支援事業にかかわったすべての団体が集まる「成果報告会」がTKP田町カンファレンスセンターで開催された。全国から16団体が出席し、成果発表に続いてポスターセッションが行われた。ゾウキリンくらぶからは、プロジェクト代表の清水沙穂理さん(食物栄養学科4年)と顧問(星野)が出席した。パワースポットに着眼した学生の発想に対して、審査委員の先生からは高評価が得られた。また、ポスターセッションでは草の根活動に取り組んでいる全国のNPO団体や大学関係者と交流を持つことができ、実りの多い1日であった。

全国報告会に出席した清水沙穂理さん。

ゾウキリンくらぶの活動については、3月16日(土)にふるさと新座館で開催された「新座デビューセミナー」でも紹介され、市内のほかのボランティア団体との連携も進みつつある。

(生活情報学科教授 星野敦子 記)

デビューセミナーに参加した佐々木朋子さん(左)と増田絢香さん。

学内報告会の様子。

食物栄養学科がSOYLUTIONタイアップ企画に参加

田中希代子さんのレシピが優秀作品

昨年6月、大塚製薬が推進する大豆の必要性を再認識するプロジェクト「SOYLUTION」から、本学とのタイアップ企画として、「女子学生が手軽に朝食をとれるように、SOYJOY、ソイカラ、SOYSHを使った簡単レシピを学生の視線で考えてほしい」との依頼があった。

食物栄養学科の3年生に声をかけたところ、16名が企画に参加し、田中希代子さんのレシピ「新感覚デザート フルーツソイッシュ」が優秀作品に選出。審査は毛塚智之バレスホテル大宮総括料理長が行った。

また、昨年10月13日(土)、さいたま共済会館において、埼玉県栄養士会主催、大塚製薬協賛で「大豆は世界を救う」と題したセミナーが開催され、毛塚智之氏の「大豆に関する実践レシピ」の講演会で、学生の入賞レシピ(最優秀作品・優秀作品・SOYLUTION賞)が紹介された。

参加した学生にとって、タイアップ企画説明会で大塚製薬の女性社員と接したことはキャリアの意識を高めるうえで刺激になったようだ。また、「SOYJOY、ソイカラ、SOYSHを使った簡単レシピ」という制限があるなかで、コンセプトを考え、悩みつつ試作を完成させ、写真審査に応募するという体験をとても楽しんでいた。参加することで「何かにチャレンジする」気持ちが育ってくれることを期待している。

(食物栄養学科教授 長澤伸江 記)

優秀作品のレシピ(考案者:田中希代子)

テーマ
新食感のデザート!

材料
SOYSH1本、フルーツ缶(黄桃・リンゴ・梨各10g、さくらんぼ5g)

栄養価
エネルギー26kcal、たんぱく質0.1g、脂質0.0g、ナトリウム1mg、カリウム30mg、食物繊維0.4g

レシピ
①フルーツを一口サイズに切り、器に入れる。
②食べる直前にソイッシュを入れて完成。

賞状を受け取った田中希代子さん。

平成24年度課外活動・社会活動における学長表彰

社会的に高い評価を受けた6団体を選出

平成24年度、課外活動および社会活動において社会的に高い評価を受け、本学の名誉を著しく高めたと認められる6団体について、2月5日(火)に表彰式を行った。表彰団体・表彰理由は、次のとおりである。

さつまいもプロジェクト

ゾウキリンくらぶ同好会

ふるさと支援隊(腰越地区)

Jumonji ふるさと支援プロジェクト in 小川町

表彰団体名	表彰理由
さつまいもプロジェクト	地域企業と協働で新座産「さつまいも」の栽培・収穫・加工・販売、および売上金を東日本大震災の被災地に寄付。
ニコニコ農園同好会	地域の高齢者・近隣農家との交流。農園での耕作・収穫、隣接する荒れ地の耕作・草取りによる整備。
ゾウキリンくらぶ同好会	福島県の観光復興支援、埼玉県神川町矢納地区の高齢者との親交、大学近隣の清掃活動など。
ふるさと支援隊(小川町腰越地区)	地域における高齢者行事への協力、地域体育活動の応援、地域ハイキングの地図発行など。
ふるさと支援隊(秩父市吉田太田部地区)	農産物加工の手伝い、地域の歴史や文化、郷土芸能の掘り起こしなど。
Jumonji ふるさと支援プロジェクト in 小川町	地域と協力し、ゴミリサイクル運動の広報活動、伝統的郷土料理の学習会開催、食文化調査など。

平成24年度 学業成績優秀者

輝かしい成績をあげた18名の卒業生を表彰

卒業学年対象の学業成績優秀者として社会情報学部4名、人間生活学部10名、短期大学部4名、計18名が表彰された。

学部	学科	氏名
社会情報学部	社会情報学科	中山苑美
		藤森未紀
	コミュニケーション学科	齋藤未樹
		村中美奈
人間生活学部	児童幼児教育学科 幼児教育専攻	高橋日菜子
		藤ノ木佳純
	児童幼児教育学科 児童教育専攻	石田まなみ
		笹川千洋
	食物栄養学科	小髙由実
		坂本千秋
	人間福祉学科	伊藤 唯
		和田香織
	人間発達心理学科	小岩井南海
		近藤春美
短期大学部	文学科国語国文専攻	石川理沙
		森山美代
	文学科英語英文専攻	加園理沙
		奈須郁実

2年生対象の学生生活に関する調査を実施

経済状況と健康について把握

3回目となる「学生生活に関する調査」は、昨年9月20日(木)後期オリエンテーションで2年生を対象に実施された。大学・短期大学部の2年生893名のうち、804名(90・0%)もの学生の協力を得ることができた。

調査の重点項目は、「学生の経済状況および健康度の把握」とした。また、本学研究倫理委員会の承認を得てから調査を実施したことも、今回の新しい点である。質問項目は、住居・経済状況に始まり、授業・学習面、課外活動、健康など、悩みや課題、大学施設および学園生活とライフスタイルにいたるまで多岐にわたり、学生生活を多角的に把握できるものとなった。

調査に協力してくれた2年生には、ピンク色のリーフレット「平成24年度(第3回)学生生活に関する調査結果のお知らせ(概要版)」を12月に配付した。

最後に、調査実施に際してご協力いただいた学生の皆さん、ならびに関係各位に厚く御礼を申し上げる。(学生生活調査WG委員長 教授 小林三智子 記)

ノートテイク・パソコンテイク講習会

学生の協力を呼びかける

2月6日(水)に本学講師の野島靖子先生、東京大塚クラブ、ろう学校PTA会長の高山嘉通先生によるノートテイク・パソコンテイク講習会が行われた。

まず、野島先生が手書きノートテイクについて、「すべての情報は伝えられず、教員の話から必要な情報のみ抜粋して書く必要がある」と説明。ノートテイクのポイントは「速く・正しく・読みやすく」「ノートテイクをされる方の身になって」と話し、25年度のボランティアへの協力を呼びかけた。

次に、高山先生からパソコンテイクについて解説があった。まず、聴覚障害者への配慮として「軽く肩をたたいてから声をかけるように」と話し、補聴器について説明。聴覚障害者への情報保障とは「聞こえないがゆえに抜け落ちる情報を補完(保障)すること」であり、会話のポイントは「口の開け方・話す速さ・声の大きさ」の3点だという。今後もこのような講習会を多く開催する予定だ。学生一人一人が思いやりを持ち、ボランティアに参加することが求められている。

(取材・文／福島茉莉記者)

若桐会だより

同窓会創立45周年記念総会・懇親会を開催いたします。卒業生の皆様のご出席をお待ちしております。

第45回「若桐会総会」開催のご案内

日時：平成25年6月2日(日)12時より
場所：ザ・プリンス パークタワー東京
(東京都港区芝公園4-8-1)

若桐会総会・懇親会の詳細については同封のご案内資料をご覧いただき、出欠席ハガキにてお申し込みください。

総会は、24年度事業報告・会計報告、25年度事業計画案・予算案を審議し、続いて懇親会を開催いたします。

懇親会では恩師とともに卒業生が部会ごとにテーブルを囲み、近況報告や情報交換をしながら美味しいお料理をいただきます。

平田智久先生、潮谷恵美先生と幼児教育学科卒業生。

同時開催 第6回還暦のお祝い

還暦を迎えた卒業生を若桐会総会にご招待！

ご招待の卒業年：昭和48年3月卒業生
ご招待の学科名：家政科・幼児教育科

本年も「還暦を迎えた卒業生」を若桐会総会へご招待いたします。同窓会創立40周年記念行事として始めたこの企画も、おかげ様で皆様からご好評をいただき、本年で6回目を迎えることとなりました。還暦を迎えられた皆様はとても若々しく、久しぶりに旧友との再会を喜ぶ姿がとても印象的です。

卒業から40年、すてきな歩みを重ね、今、人生の折り返し点を迎えられた6期生の皆様に、ささやかではありますが、心をこめて「♪還暦のお祝い♪」を申し上げます。十文字という縁で結ばれた心のバトンを力強くつなぎ続けていきましょう。

家政科・幼児教育科6期生の皆様、お誘いあわせのうえ、ぜひ都心のホテルへお運びいただきますようご案内申し上げますとともに、多くの方のご出席をお待ち申し上げております。同封の「出欠席ハガキ」に必要事項をご記入のうえ、ご投函ください。

特別会員の皆様。

同時開催 人間福祉学科編入学相談会

時間：11時～12時

還暦をお祝いした皆様(第5回)を囲んで。

住所、氏名等の変更は本学同窓会「若桐会」までご連絡ください

十文字学園若桐会 各部会
(卒業学科)
TEL:048-477-0555(代表)
FAX:048-478-9367
※卒業学科・卒業年を必ず明記のうえお送りください。

Extension News ── 大学開放・地域連携推進センターから

2013年度 5月～11月の「公開講座」

今年度も公開講座・講演会を開催します。詳しくは、本学ホームページ「公開講座・講演会」をご覧ください。

講演会
表現文化学科講演会「アジア諸国における日本の国際協力」
日時 ▶ 5月25日(土)13:30～15:00
講師 ▶ JICA(独立行政法人国際協力機構)国際協力講座講師
海外青年協力隊体験者

公開講座
「いま、何を議論すべきなのか ―エネルギー政策と温暖化政策の再検討―」
日時 ▶ 9月28日(土)13:30～15:30
講師 ▶ 澤 昭裕氏(経団連21世紀政策研究所主幹・NPO法人国際環境経済研究所所長)

桐華祭講演会
「魂の音を求めて―二代目高橋竹山 津軽三味線の世界」
日時 ▶ 10月26日(土)13:30～15:00
講師 ▶ 二代目 高橋竹山氏(津軽三味線演奏家)

特別公開講座inさいたま
日時 ▶ 11月9日(土)
会場 ▶ 浦和ロイヤルパインズホテル
※内容及び時間などの詳細は決定次第、本学HPにてお知らせいたします。

公開講座
「虐待問題の現状と今後の課題を考える」
日時 ▶ 11月30日(土)13:30～15:30
講師 ▶ 川島志保氏(弁護士:横浜弁護士会)
高橋 均氏(社会福祉士:埼玉県南児童相談所副所長)
山本 進氏(社会福祉士:埼玉県社会福祉会副会長)

予約方法

参加ご希望の方は、各講座の1カ月前よりご予約ください。先着順で定員になり次第締め切ります。1回ごとにお申し込みをお願いします。
★電話または専用フォームからお申し込みください。

※専用フォームはインターネットにて右記URLにアクセスのうえ、本学ホームページ「公開講座・講演会」より必要事項を入力し、お申し込みください。「受付完了」の返信メールが届いた時点で「受付完了」とさせていただきます。定員超過の場合はご連絡させていただきます。

お申し込み・お問い合わせ先

社会交流支援課／
大学開放・地域連携推進センター
URL:http://www.jumonji-u.ac.jp/outline/lecture/
TEL:048-477-0958(直通)
※平日9時～17時、土曜日9時～13時

Admission Info ── オープンキャンパス情報

2013年 オープンキャンパス情報

日程 》》 5月19日(日)
6月16日(日)
7月14日(日)・21日(日)・28日(日)
8月12日(月)・13日(火)
9月29日(日)
11月24日(日)
時間 》》 13:00～16:00

内容 ▶
- アカデミック展示 …… 各学科の学びをパネルで展示
- 学生と話そうコーナー … 気になるキャンパスライフについて在学生に直接聞いてみよう
- 学科紹介 …… 学科の特色、取得が可能な資格、就職状況、入試などについて講義形式で説明
- キャンパスツアー …… 学生ツアーガイドがキャンパスをご案内

そのほか、個別学科紹介&相談、なんでも相談コーナー、資料コーナーや特別企画として「AO入試対策講座」「授業体験」「推薦入試対策講座」も予定しています。

※入退場自由、事前予約不要です。
※詳細は大学のホームページをご覧ください。